

がんを
防ごう

「受動喫煙 確かな防止策を」

札幌で2回目の「サミット」

患者の要望を提言へ

がん患者、医療者、行政担当者、議員、企業関係者、メディアの6者が、がん死亡率が高い北海道のがん対策の課題や解決策を話し合う「北海道がんサミット2017」が6日、札幌市中央区のWEST19で開かれた。

北海道がん患者連絡会、北海道新聞社など13団体でつくる、北海道がん対策「六位一体」協議会(会長・長瀬清北海道医師会会長)の主催で、昨年(2016年)に続き2回目。テ



がん患者ら関係者が一堂に会し、受動喫煙防止やがん対策の課題を話し合った。北海道がんサミット2017

ーマは「患者の声を、がん対策へ。今、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか」。道が2018年度からの新たながん対策計画を策定することを受け、患者の要望を提言する狙い。約180人が参加した。

講演では、がん対策北海道協議会議員の会の中司哲雄会長代行が、12月開会予定の定例道議会に提案を目指す受動喫煙防止条例の原案を説明。美瑛市医師会の井門明会長は、昨年7月施行の市受動喫煙防止条例の制定経緯などを紹介し「受動喫煙のない社会を子どもに残すのが大人の責務」と述べた。

NPO法人がん政策サミット(東京)の埴岡健一理事長は、患者や住民の要望を実現するためには、がん計画で目標を明確に掲げることが重要などと語った。

その後、参加者は「早期発見」「がん教育」など13班に分かれて課題などを話し合い、「道と全市町村に実効性のある受動喫煙防止条例の制定・施行を要望する」とのアピールを採択した。協議会は、サミットで出た意見などを要望書にまとめ、知事、札幌市長、道議会などに提出する。

「がんサミット」の詳細は、16日朝刊生活面に掲載します。